

# ポストコロナの新しい生活様式と自動運転

---

## 2040年、道路の景色が変わる ～人々の幸せにつながる道路～

### ◆意義・目的

ポストコロナの  
新しい生活様式

人口減少社会

デジタルトランス  
フォーメーション  
(DX)

災害や気候変動  
インフラ老朽化



道路政策を通じて実現を目指す  
2040年の日本社会の姿と政策の方向性  
を提案するビジョンを策定

### 「はじめに」において、以下のように記載

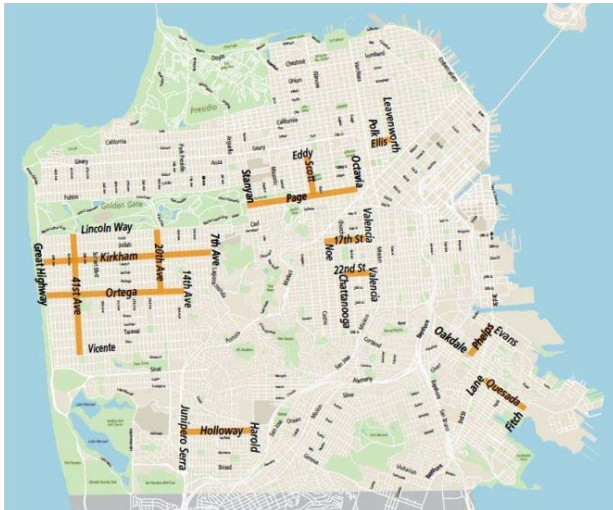
- ポストコロナの新しい生活様式や社会経済の変革も見据えながら、中長期的な政策の方向性を提案
- コロナ禍では、生活スタイルや社会経済構造の変革が加速。欧米各国では、ポストコロナを見据え、社会的距離を確保するために都市部における道路空間を再編成。わが国でも、新しい日常を支える基盤として従来になるスピードで変化するための議論を早急に開始すべき
- 道路は、国民生活や経済の安定確保に不可欠なため、ライフラインとしての使命を持続的に果たすため、道路管理業務の継続性が必要。併せて不要不急の人の移動を抑制しつつ、全国各地への物流確保が必要

## ソーシャルディスタンス確保に向けた道路空間の再構築

街路を車両通行止めとし、歩行者や自転車に積極的に開放

### Slow Street サンフランシスコ（米国）

- ・一時的に12の通りを封鎖し、歩行者や自転車の空間として、社会的距離を確保
- ・スロープなどで車両の速度を落とし、歩行者と自動車共存できる街路を順次拡大



出典：STREETBLOG SF 20200421

### Tactical Urbanisme パリ首都圏（フランス）

- ・パリ及び周辺地域で、自転車専用レーン(総延長680km)を設置
- ・低コスト（3億1-0）で暫定的な形（コーン、バリケード、路面標示）で都市環境を改善



従来の2車線の一本を、自転車専用双方向道路に変更



出典：VINCENT FUJII Yumi Blog  
都市封鎖からの出口戦略 3) フランスの場合

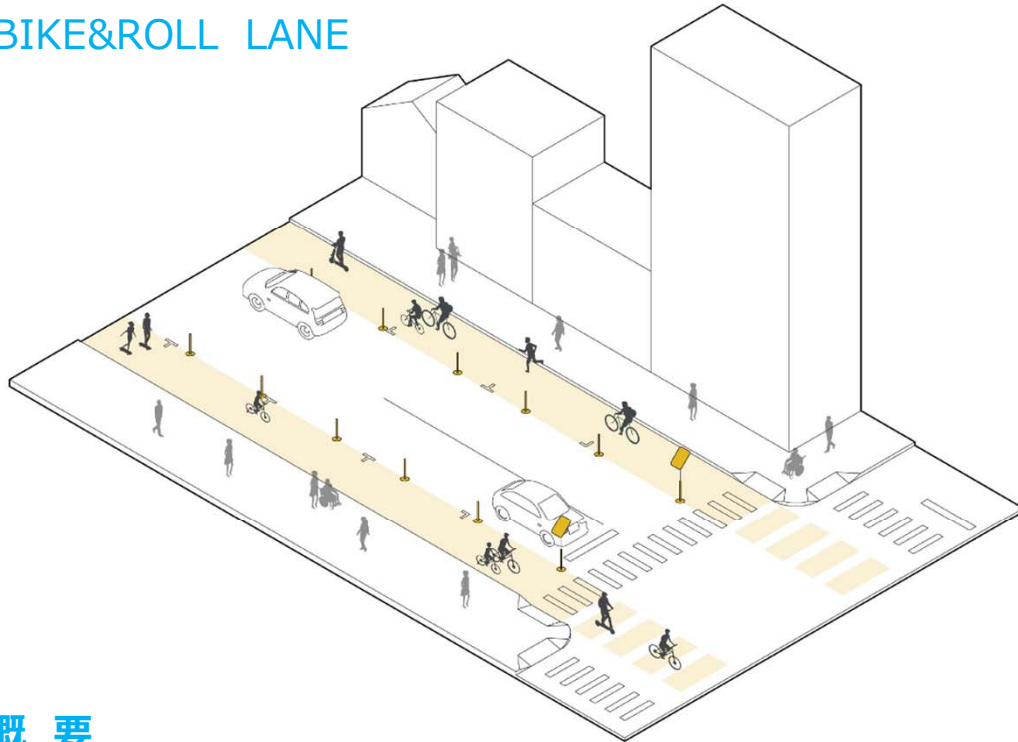
### London StreetSpace ロンドン（イギリス）

- ・数週間で、自転車や歩行者のために道路の幅を広げたり、自転車専用レーンの整備等を進める計画(予算日本円で330億円)
- ・ロックダウン緩和時に、公共交通需要の受け皿として、自転車が10倍、徒歩が5倍になる可能性に対応
- ・自転車の修理に使えるクーポン発行や公道での利用が禁止されている電動キックボードについても、6月から公共の場で試験的に利用可能

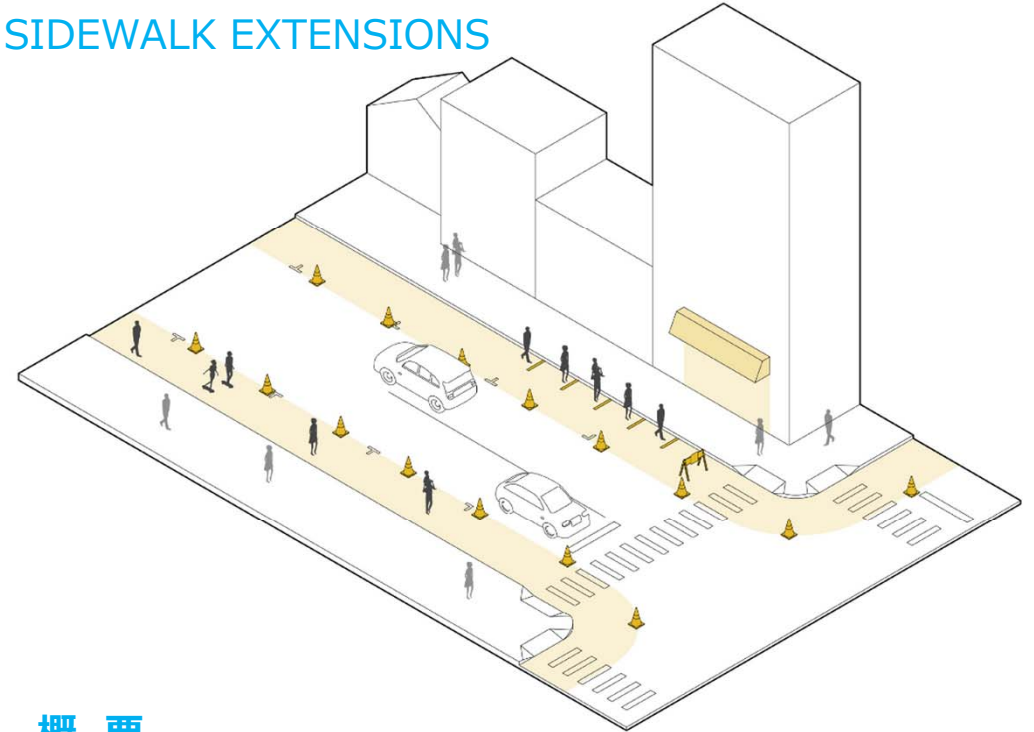
出典：London StreetSpace Plan - Interim guidance for boroughs, May 2020

- COVID-19危機を克服し、経済活動を回復するための、交通計画および道路設計における新たな実践的な取り組みを収集、紹介
- 対応の原則として、①まず最も弱い立場の人を支援②公衆衛生指導の強化と支援③より安全な道路の確保④地域経済支援⑤コミュニティの参加⑥迅速な行動とフィードバック、を提示

## BIKE&ROLL LANE



## SIDEWALK EXTENSIONS



### 概要

必要不可欠な労働者が十分な物理的距離を維持しながら安全に自転車等で通行するためのスペースを提供

### ステップ

カーブサイドの駐車スペースや車両通行レーンを自転車レーンに変更



▲パリの緊急自転車レーン事例

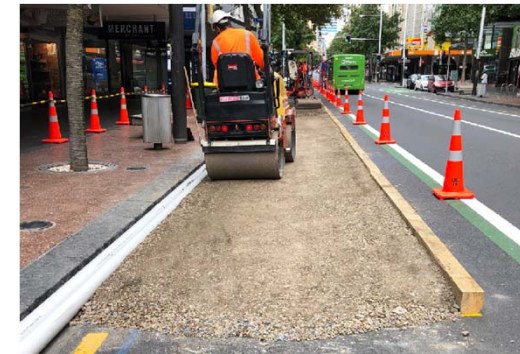
出典 : NACTO 「Streets for Pandemic Response & Recovery」 p16

### 概要

歩行中または待機中に、人々が物理的距離のガイドラインに準拠するためのスペースを提供

### ステップ

カーブサイドの駐車スペースや車両通行レーンを歩行者空間に変更



▲オークランドの歩道拡幅事例

出典 : NACTO 「Streets for Pandemic Response & Recovery」 p18 41